

御師住宅 東馬場家

1659 年以來何世代にもわたり、馬場家の当主は武蔵御嶽神社の御師を代々世襲し、武蔵御嶽神社の重要な参詣人へ宿泊施設を提供したりしています。馬場家御師住宅は宿坊で、一家の住宅でもあります。御岳山最古の住宅の 1 つで、1866 年に建造されて以来、ほとんどその姿は変わっていません。

馬場家御師住宅には畳の部屋が 5 室あります。各部屋は、床の間や装飾棚、むき出しの木梁、土壁など、江戸時代（1603-1867 年）初期の典型的な侍や上流階級の様式となっています。うち 1 室には、かつて武蔵御嶽神社を参詣する前に巡礼者が身を清めていた祭壇があります。この祭壇は今でも祭事に用いられています。各部屋は襖や障子で仕切られ、その上には風通しと採光のための手彫りの欄間が備えられています。地下には広い貯蔵室があり、冷蔵庫が導入される以前は冷蔵スペースとして使用されていました。

地元では「東馬場」の名で親しまれるこの住宅は、現在、馬場家 14 代目当主の住宅で、宿とお茶処が営まれています。馬場家御師住宅は、東京都指定有形文化財に指定されています。